令和5年 第2回定例会 所信表明

(令和5年6月8日)

1 はじめに

町民の皆さまの暖かいご支援とご理解を賜り、2期目の町政を担わせていただくことになり、責任の重さに、身の引き締まる思いであります。

皆さまの生命と財産を守り、壮瞥町の持続的な発展のため、誠心誠意、町政運営にまい進する決意であります。

定例会にあたり、これから4年間に取り組むべき町政の課題と、その解決に臨む、私の所信を申し上げます。

2 町政に臨む基本姿勢

私は、就任以来、常に町民の皆さまの幸せと、町の持続的な発展のために、壮瞥町を、次代を担う子どもたちへ着実に継承していくことを基本に、

- ・公正・公平で、町民の皆さまとともに歩む町政
- ・課題解決に果敢にチャレンジする町政 を信条として、

第5次まちづくり総合計画の将来像「笑顔あふれる元気なまち～そうべつ～」の実現に向け、町政運営にあたらせていただきました。

この4年間は、新型コロナウイルス感染症の対応を最優先として、国の施策、定額給付金やワクチン接種をいち早く実施するとともに、観光、飲食を中心に、深刻な影響を受けた対策として、国の地方創生臨時交付金を活用し、緊急経済対策として事業継続支援などに取り組んでまいりました。

コロナ対策とともに取り組んだのは、平成28年度以降、収支不均衡となっていた財政収支の改善とともに、まちづくり総合計画の推進です。

財政収支の不均衡の改善については、職員の皆さんの努力により、令和3年度決算では、一般会計の実質単年度収支が6年ぶりに黒字となり、公約として掲げた基金減の解消は、令和2年度以降、毎年、増額となっております。

また、まちづくりのビジョンを示すため、令和元年度に、多くの住民の皆さま

まの参画を得て、第5次まちづくり総合計画を策定したところです。

財政収支の改善の成果をもとに、既存の事業の継続実施に加え、公約に基づく新たな取り組みとして、「壮瞥町子ども・子育て支援条例」に基づく町独自の子育て支援策の創設や、持ち家住宅取得奨励金の拡充など定住促進施策の展開、さらには、壮瞥中学校の移転建替整備など計画的な社会資本整備により持続的で発展的なまちづくりを推進してきたところです。

加えて、待望のリゾートホテルが壮瞥温泉に4月28日オープンしました。町では、令和2年度、温泉の安定供給に新たな温泉源の掘削や本年度、民間賃貸住宅整備補助金により社員寮の整備など必要な支援を行っているところです。

洞爺湖圏域の誘客の新たな旗頭となり、雇用の場が創出される期待があり、本町の人口も、本年2月末、2,354人であったものが、2か月後の4月末には2,376人と、22人増加しております。

この流れと歩みを止めることなく、これからも少子化、人口減や産業の振興に加え、物価や燃料費等の高騰といった課題解決に向け、チャレンジしなければなりません。

町民の皆さまの声を大切にして、安定的な財政運営のもとで、

- ① 元気な農業と観光
- ② 火山との共生
- ③ 子育て支援の充実
- ④ 老後も安心なまち 実現に向け全力を尽くす覚悟です。

議員の皆さま、町民の皆さまと「壮瞥町をよりよい町としていく」という想いを共有し、一人一人の力を結集し、「豊かさを実感し、希望あふれる未来」を創っていく決意であります。

温かいご支援、ご声援をよろしく申し上げます。

3 政策推進にあたっての基本的な考え方

政策の推進にあたっての基本的な考え方を申し上げます。

これまでの取組を基本としながら、第5次まちづくり総合計画等に基づき、着実に施策を展開することが重要です。

(1) 元気な農業と観光

地域に安定した産業や雇用の場があることは、地域の持続的な発展に重要と考えております。

まず、本町の基幹産業の一つである農業の振興については、本町は、規模は大きくないものの、多種多様な野菜といった農産物を生産しております。

担い手の減少や高齢化が進む中で、担い手の確保、充実・強化に努めるとともに、ICT 技術の活用に関する研究や、本町農業・農村のランドデザインの検討に加え、持続的農業経営推進事業の創設など取り組んできたところです。

こうした取り組みを継続するとともに、スマート農業技術や高収益作物の導入、おいしさの追求やブランドイメージ創出など、認定農業者や経営体の取組を支援する新たな施策を創設し、持続的で発展性のある農業・農村地域を創生していく考えです。

深刻さを増している有害鳥獣対策については、関係団体との連携のもと、個体数を減じる対策を強化するとともに、人材の育成・確保、資源としての活用など、総合的に取り組んでまいります。

林業の振興については、森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるよう、植栽、保育、間伐等の森林整備を計画的に推進し、より活発な経済活動として活用を図るため、森林環境譲与税などの財源を活用した取組を推進するとともに、関係機関との連携を強化してまいります。

廃止鉱山の鉱害対策については、道や関係団体と連携して、坑廃水の適正処理等を継続してまいります。

商工業の振興については、昨年制定した「壮瞥町中小企業・小規模企業振興基本条例」に基づき、「住宅等リフォーム支援事業補助」や「起業化促進補助」、等を継続するとともに、新たな効果的な施策を創設してまいります。

また、インボイス制度の導入や、事業継承等、伴走型支援に取り組む商工会の事業を支援するとともに、旧役場庁舎周辺や空き地、空き店舗の活用と、恵まれた景観を保全し、活用する取組を推進してまいります。

北海道遺産である「昭和新山国際雪合戦」や、スポーツツーリズムなど、これまでの取組を新たな誘客に結びつけていくため、具体的な検討を進めてまいります。

加えて、これまでのシードル・ワインづくりをベースに、自分たちで生産、加工、販売し、付加価値を高める取組に結びつけていくため、ワイナリー整備などの機運の醸成や具体的なビジョンを検討してまいります。

さらに、道の駅そうべつ情報館の機能強化を図るとともに、立地したリゾートホテルと連携し、地域の資源、資産を生かした新たなツーリズムの開発等により、選ばれる観光地づくりを推進していく考えです。

(2) 火山との共生 ー地域の特性を生かす 街づくりー

有珠山との共生が宿命である本町にとって、各地域の歴史と特性を生かした地区整備や噴火の再来に備えた社会資本整備に向け、国や北海道と連携した社会資本整備や計画的な施策の展開が重要と考えております。

地域の自然や環境を体験的に学び、火山と共生する自然観を習得する教育実践は、我が町の固有の文化で、現在では、ユネスコ世界ジオパークの基本理念として、洞爺湖・有珠山周辺地域全体に広がりを見せています。

人材育成事業を継続するとともに、自主防災組織の組織化の推進、防災マップ情報の共有や防災資機材の整備に加え、関係機関との協定締結や防災訓練の

実施などにより、災害に強い人づくり、地域づくりを推進してまいります。

有珠山噴火から23年余が経過しており、科学的知見を集積した防災マップ情報に依拠した中長期的な基盤づくりが重要と考えます。

そのために、国道453号や道道各線の整備促進へ向けた要望を強化するとともに、町道滝之町中島1号線の整備や各路線の維持補修を継続し、新たな町道路線の整備に向けた検討を行ってまいります。

また、道路、橋梁の適切な維持管理に努めてまいります。

次に、地域の特性を生かす街づくりについてですが、

滝之町・立香地区については、町の中心地として買い物がしやすい環境や、空き家・空き地の活用、良好な景観形成に向けた施策などを継続して検討するとともに、建部改良住宅の整備に向け、検討を進めてまいります。

久保内・弁景・幸内・蟠溪地区については、地域の皆さんと協議、検討し、空き校舎や公共施設の再編、活用に関する検討を進めてまいります

また、温泉資源の効果的、持続的な活用を図るため、適切な管理方法や利活用の検討を進めるとともに、国道453号の蟠溪道路整備にあわせたインフラの移転や町道関内蟠溪線の地すべり対策を継続してまいります。

東湖畔・仲洞爺地区については、農地所有適格法人が主体となり、地域の特性を生かした振興計画が推進されており、事業者と連携し、必要な社会資本整備を推進するとともに、道道整備の要望を強化してまいります。

昭和新山地区については、これまで空き店舗等の課題解決に向け、検討を行ってまいりましたが、今後、地域の皆さまや関係機関との意見交換を行い、将来を見据えた街並み再編プランを作成し、計画的に推進していく考えです。

壮瞥温泉地区については、開業したホテルや新たに立地を計画している事業者と協議調整し、必要な支援を行うとともに、立地事業者と連携した地域の活性化に取り組んでまいります。

(3) 子育て支援 ―若者が定住するまちづくり―

子どもからお年寄りまで、安心して暮らせるまちづくりは、若者世代の移住や定住を促進するために重要と考えております。

「子どもたちは地域の宝」です。少子化はわが国の最大の課題です。

本町では、これまで、保護者・学校・地域が総掛かりで、子どもたちの教育に関わる地域社会の形成に向け取り組むとともに、知徳体のバランスのとれた育成を目的に、コミュニティスクールや小中一貫教育を推進してきました。

この基盤を生かし、令和2年3月に「壮瞥町子ども・子育て支援条例」を制定し、令和3年度から順次、医療費の無料化を高校生までに拡充し、「子育て応援祝金」など独自の施策を創設したところです。

これらの施策に加え、保育内容や一時預かりなど保育サービスの充実、保育料と副食費の無償化と、小中学校の給食費の一定額を補助する仕組みの創設など、財政状況を勘案し計画的に導入する考えです。

本年5月、ケミヤルビ市と友好都市調印30年となりましたが、本町の特色ある人材育成事業として保護者等から継続の要望が強い「中学生フィンランド国派遣事業」は、派遣方法を見直し、令和13年度まで継続してまいります。

壮瞥中学校を移転整備し、望ましい教育環境づくりを推進するとともに、胆振管内唯一の町立の農業高校である壮瞥高校については、地域産業の担い手を育成する観点から、教育課程の見直しを行うなど、高校を核とした地域創生に取り組む所存です。

慢性的な住宅不足を改善するため、助成額を拡充した「民間賃貸住宅整備助成」や、子育て世代の住宅取得と町内居住を促進する「持ち家住宅取得奨励金」を継続するとともに、地域おこし協力隊や人材を誘致し、その力を活用し、本町の課題解決と活性化に資する取組を推進してまいります。

マイナンバーカードについては、本年4月末日現在、交付率が91.6%（全道1位）となっておりますが、この成果を踏まえ、窓口手続きや業務の簡素化など、町民の皆さまと利便性を分かち合える取組を推進する考えです。

（4）老後も安心して暮らせるまちづくり

「お年寄りや町の財産」です。

大正、昭和、平成の時代とともに、我が国と壮瞥町の基盤を築き上げてこられた先人の皆さんに敬意と感謝を表するとともに、老後も健康で、安心して暮らせる環境づくりは重要と考えます。

明るく健康に暮らせる「健康寿命」を高めるため、特定健診や各種検診の受診率向上により、疾病予防対策に努めるとともに、健康相談、訪問・介護サービスなどの充実を図ってまいります。

生活支援対策については、社会福祉協議会や法人等と連携した各種サービスや、「生活支援ハウス運営」、「介護予防通所・家事援助」など委託事業の継続や「福祉灯油」を200リットル相当まで拡充するとともに、国民健康保険、後期高齢者医療と介護保険事業の安定的な運営に努めてまいります。

さらに、伊達火葬場の利用料の一部負担を継続し、本町の火葬場については、計画に基づき除却するとともに、西いぶり広域連合が整備する新中間処理施設の整備に必要な負担を行ってまいります。

地域交通対策については、胆振線代替バス等、バス路線の運行維持や、コミュニティ・タクシーの運行維持費の補助を継続してまいります。

スポーツによる健康づくりや、社会参加による生きがいづくりとともに、移動に欠かせない、コミュニティ・タクシーの拡充などに取り組んでまいります。

以上、4つの柱に基づき申し上げましたが、これらの施策を総合的に着実に推進し、子育て世代を中心に、移住・定住の地として選択される町をめざしていく考えです。

(5) 施策の展開は安定的な財政運営から

私は、4年前の所信表明で、多くの自治体が基金を減らしていない中、壮瞥町は、基金を5年間で約3億円を減らし、既存の事業の継続も困難となっている現状と、早急に改善に取り組む必要性と対策を述べたところです。

具体的には、行政改革の推進に加え、事務事業の評価を実施するとともに、ふるさと納税制度の取組の充実と、北海道や胆振総合振興局へ、財源の確保に向けた支援と収支改善に向けた助言を要請するなどして、令和2年度末の収支バランス均衡を目標に取り組むことを表明しました。

財政収支については、職員の皆さんの努力により、令和3年度決算では、一般会計の実質単年度収支が6年ぶりに黒字となり、公約として掲げた基金減の解消は、平成30年度、17億8,600万円であったものが、3億8,200万円増加し、21億6,800万円となったところです。

安定的な財政運営のもとで、第5次まちづくり総合計画の計画的な推進によって、本町が抱える課題の解決に向け、職員の皆さんとともに、引き続き、チャレンジしていく考えです。

加えて、情報公開の徹底と、職員の政策能力を高める研修の充実、自発的な行財政研究の場の設定などにより、やる気を喚起し、期待と負託に応える役場づくりに取り組んでいく考えです。

4 広域連携の推進

多様化する行政需要に、適切かつ効率的に対応するために、消防や火葬場、ごみ処理、電算の共同運営などを「西胆振行政事務組合」や「西いぶり広域連合」により、広域連携のもとで行っています。

有珠山の火山防災や、広域観光圏、ジオパーク推進などにおいても、近隣市町との連携は不可欠となっており、関係市町と連携を強化するとともに、胆振管内の構成員として、役割を果たしていく所存です。

5 むすび

以上、本定例会の冒頭において、これから4年間の町政執行にあたって、所信を申し述べさせていただきます。

壮瞥町は、これまで4度の有珠山噴火や、幾多の困難を乗り越え、先人のたゆまぬ努力により、豊かな郷土が築きあげられてきました。

胆振管内で一番、定住人口が少ない自治体ではありますが、素晴らしい自然環境、世界に誇れる景観、温暖な気候、温泉、豊富に産出される農産物といった地域資源があります。

また、札幌圏や、都市機能を持つ伊達市に近く、交通アクセスと医療環境などに比較的恵まれた町でもあり、これらの優位性ととも、火山と共生し、雪合戦を発案、継承している住民の知恵と力がある町です。

壮瞥町の持つ地域資源と人的資源を最大限活用し、まちづくりに対する一人一人の想いと力を結集し、課題解決に、果敢にチャレンジし、「豊かさを実感し、時代を担う子どもたちに、希望ある未来」を準備していくために、まちづくりに誠心誠意、取り組む決意であります。

議会議員の皆さま、町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げ、所信表明とさせていただきます。